

JR 福知山線脱線事故 + 東日本大震災・石巻市立大川小学校

# 講演会 & 公開対談

2005年4月25日に発生したJR 福知山線脱線事故から、来年で20年を迎えようとしています。この事故の背景にある原因は、鉄道事業者だけでなく、人の命を運ぶ多くの公共交通機関に携わる方々にも学ぶべきことが多い課題となりました。

また、東日本大震災では多くの方が被害に遭い、地震や津波の恐ろしさと共に、いつ誰の身に起こってもおかしくないという不条理な現実を思い知らされました。

この講演会&公開対談では、事故や災害を経験した人たちのその後の歩みをとおして、「生きるとは」「いのちとは」という課題を共に考え、この困難な時代において、異なる立場の人たちとのディスカッションの中から、「それでも生きることは素晴らしい」というメッセージを発信したいと考えています。

わたしたし  
たたちは  
—— JR 福知山線脱線事故から20年

どう生きるのか

11/3<sup>日</sup>  
2024

13:00~15:30 [開場 12:15~]

**入場無料** (定員 200名)

予約不要 ※直接会場までお越しください。

日比谷図書文化館

日比谷コンベンションホール(大ホール)

千代田区日比谷公園 1-4



- ・東京メトロ丸の内線・日比谷線・千代田線「霞ヶ関駅」C4・B2出口より徒歩約5分
- ・都営地下鉄三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分
- ・東京メトロ千代田線・日比谷線「日比谷駅」A14出口より徒歩約7分
- ・JR新橋駅 日比谷口より徒歩約12分

※当施設に駐車場・駐輪場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

## 福田 裕子 Yuko Fukuda

JR 福知山線脱線事故・1 両目乗客

美術大学・日本画専攻 3 回生のときに 1 両目に乗車し鎖骨骨折などの重症を負う。事故車両の中で、負傷した人や遺体の中に埋もれていた感覚から、人体が描けなくなるというトラウマに苦しんだ。負傷者と家族等の会で毎年配布している「空色の葉」のイラストを担当。

その後の生き方を  
左右したそれぞれの  
体験を語り



## 講演会 & 公開対談

### 登壇者紹介



## 小椋 聡 Satoshi Ogura

JR 福知山線脱線事故・2 両目乗客

2 両目に乗車し足首の骨折と全身打撲の重症を負う。事故後、乗車していた車両すら分からなかった遺族と共に「最期の乗車位置」を探す活動を行い、国土交通省の事故調査報告書の検証作業にも関わった。事故車両に乗車していなかった妻が代理受傷で双極性障害を発症し、現在も通院中。

## 只野 哲也 Tetsuya Tadano

東日本大震災・宮城県石巻市立大川小学校

津波により多くの児童や教職員、地域住民などが犠牲になった。自身も小学5年生のときに津波に流され、妹、母、祖父を失う。解体が危惧されていた大川小学校舎の保存を求め、震災遺構として保存が決定。「Team 大川 未来を拓くネットワーク」を設立し(代表)、新たなコミュニティづくりに挑戦している。



経験したことや場所、年齢などが異なる人たちとのディスカッションをとおして、会場にお越しの皆様と、それぞれの「生きる」について考えます



## 聞き手：木村 奈緒 Nao Kimura

ライター

フリーランスとして取材執筆をはじめ、各種プロジェクトの企画・運営などを行う。JR 事故から 10 年目の 2015 年、東京で小椋聡氏、福田裕子氏らと共に「わたしたちの JR 福知山線脱線事故—事故から 10 年展」を開催。当事者ではない立場から事故を考える場をつくり、5 日間で約 500 名が来場した。

講演会と公開対談の様子は、書籍「わたしたちはどう生きるのか—JR 福知山線脱線事故から 20 年」(2025 年 4 月上旬発刊予定)に収録する予定です。

### 刊行によせて

#### 第 1 部 2005 年 4 月 25 日からのあゆみ

- 1 章 JR 福知山線脱線事故とは
- 2 章 「わたしたちの JR 福知山線脱線事故—事故から 10 年」展

#### 第 2 部 わたしたちはどう生きるのか

- 3 章 わたしたちが生きる社会
- 4 章 それぞれの「生きる」—公開対談から

#### おわりに

※内容は変更になる場合があります。

主催 (講演会&公開対談)：「わたしたちはどう生きるのか」講演会開催実行委員会

講演会&公開対談、書籍についてのご案内や取材等のお問い合わせにつきましては、右記 QR コードの専用ページでご案内させていただきますので、ご参照ください。

